

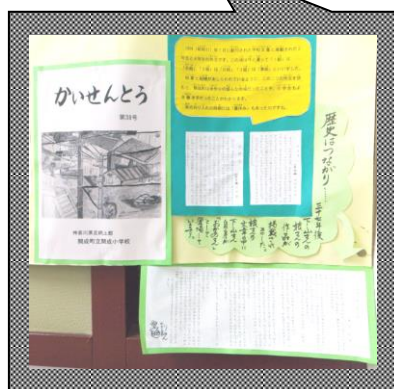


開成物成務

平成 30 年 12 月 17 日 (月) 発行

校長 津田 将美

かいせい歴史通り



職員室の前の廊下に「かいせい歴史通り」という名前がついています。地域や保護者の方々が学校を訪れると、ここにある掲示物を興味深げに、そしてなつかしげに見入る姿が見られます。子どもたちもしばしばここを訪れ、社会科や総合的な学習の時間の調べ学習をしています。

本校のグランドデザインにも「考えを磨き合う子の育成」の方策の中に「地域や開成小学校の歴史を生かした体験学習、問題解決学習の実践」とあります。学校運営協議会の委員さんからのご意見を受け、「開成小学校の歴史」を今年度から入れ込んで実践しています。そのために、この「かいせい歴史通り」はとても重要な役割を担っているわけです。前任の山崎校長が作成した貴重な資料なのですが、あまりに立派に出来上がっているので、今年度、なかなか手がつけられずにいました。

先日地域の方から、以前本校で作成していた文集「かいせんとう」を見せてほしいという依頼がありました。実はその方は、この歴史通りに小学校時代書いた作文が「かいせんとう」の作品として掲示されているので、その原本を見たいということでした。

学校文集「かいせんとう」は、昭和 31 年度に第 1 号が発行され、平成 21 年度を最後に終了するまで、実に 62 号の長きにわたって発行され続けてきました。そのすべてが校長室に保存されているので、依頼された号はすぐに見つかりました。

なつかしそうにその文集を見ていたその方は、ふと思い出したようにおっしゃいました。

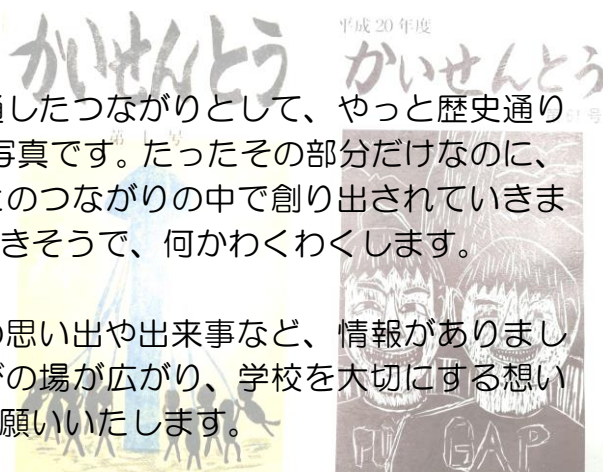
「そういえば、娘もこの文集に載ったんです…。」

「えっ、何年ごろかわかりますか？」

さっそく、言われた年度の前後の文集をさがしてみると、ありました。そして見つかった娘さんの作文の中には、その方がお母さんとして登場しているのです。62 号にわたる歴史ある文集ですから、親子で載ることもあるとは思いますが、何か不思議なつながりを感じて、二人で感動してしまいました。

おかげさまで、今年度、文集「かいせんとう」を通したつながりとして、やっと歴史通りの資料に追加することができました。それが、左上の写真です。たったその部分だけなのに、なぜかうれしいです。地域や学校の歴史は、人と人とのつながりの中で創り出されていきます。そんなつながりを想像すると、無限に広がっていきそうで、何かわくわくします。

保護者の皆様、地域の皆様も、もしその時その時の思い出や出来事など、情報がありましたら、是非お寄せください。きっと子どもたちの学びの場が広がり、学校を大切にする想いも深まっていくのではないかと思います。よろしくお願いいたします。



応援、ありがとうございました



天気心配もされましたが、先々週に予定通り、すべての学年のかけ足記録会が終わりました。どの学年の子どもたちも、少しでも自分の記録を伸ばそうという気持ちがひしひしと伝わってくる記録会でした。子どもたちが本番でがんばれたのは、保護者の皆様の声かけや応援と共に、やはり練習でがんばったことの栄養が心にたっぷり蓄えられていたからだと思います。

11月から始まった練習は、かけ足記録会終了後の先週の月曜日まで続けました。また、体育の時間にも各学年の実態に合わせて練習を行ってきました。子どもたちは、一回一回の自分の記録や体の調子の変化から本番での目標を設定し、努力を続けてきました。そのことが本番でのがんばりにつながり、更には「運動をすることの気持ち良さ」への気付きになってほしいと願います。

走ることは、体も心も健康にします。適度な運動をした後、リラックスして気持ちよくなるのは、脳内で「セロトニン」や「βエンドルフィン」が放出されるからだということです。「セロトニン」は精神安定につながる物質で、スッキリとした気分にしてくれます。「βエンドルフィン」は、気持ちを高める効果のあるものです。私自身走るとは好きなので、この効果はとても実感しています。

運動することは、気持ちを安定させ、ストレスを解消するのに最適です。何よりも、心身を健康にし、自分の人生を豊かなものにしてくれます。

かけ足記録会等の取り組みを通して、生涯を通して運動に親しめる「たくましい子」を今後も育てていきたいと思っています。

冬休みも健康に留意し、気持ちよく汗をかく経験ができますように。

ピカピカ班あそび

～12月7日 ふれあいタイム～

「校長先生、杉山先生ったらね、子ども相手に全力で追いかけてくるんだよ！」

「先生だって全力でやってるんだから、子どもたちも負けずに思いっきりやりな。」

「だって、すごく速いんだもん…。」

私に報告に来た子は、言葉とは裏腹に、とてもうれしそうでした。だから、私も明るく言葉を返すことができました。その子は、小回りして杉山先生を回避する作戦をそっと教えてくれて、元気に走り去っていきました。

全校児童が生き生き活動するすてきさんになるこのあそびでは、先生たちも生き生きと活動しています。

毎回6年生が中心になり、企画運営していくものですが、6年生の指示が、実にきびきびとして気持ち良かったです。ゲームの進行をグループ全員が楽しめるように明るくやったり、下級生が困らないようなルールを説明したり、なかなかボールにさわれない子にボールを投げられるように配慮したり、生き生きとした活動の中に、豊かな心、たくましい心、賢い心がたくさん感じられました。あそびも実に様々で、ドッチボール、おにごっこ、宝探し、いす取りゲーム、ハンカチ落とし、ばくだんゲームなど、準備にも休み時間等使ってがんばったんだろうなあ、と感じさせるものでした。

このような取り組みを通して、6年生は自分自身の存在を前向きに、肯定的に捉えるようになります。また、下級生は6年生に対してあこがれをいだき、自分たちもいつか同じように頼られる存在になりたいという願いを持つようになります。

12月とは思えない、ぽかぽかとした穏やかな天候の中、心もぽかぽかとあたたかくなるような「ピカピカ班あそび」でした。

